

<p><b>科目名：薬理学</b></p>	<p>必</p>	<p>2 単位</p>
<p>(Pharmacology) 履修年次/時期：1 年次 後期 授業形態：講義 担当教員：前畑洋次郎（実務経験あり）</p>		
<p>学修目的</p>	<p>「なぜ薬で病気が治るのだろうか？」このような根本的な薬の生体作用に対する疑問に答えるような講義から始め、「薬は生体へどのように作用するのか」あるいは「薬は体内でどのように変化するのか」という薬理学の基礎を理解することで、歯科衛生士として必要な薬理学的知識を身につける。これらの知識を基本として様々な症状・疾患に対する薬物療法の実際と留意しなければならない薬物の副作用・相互作用を理解する。 DP1-(1)、2-(1)、2-(2)およびCP 2、3、4 に関連する。 科目 No.S1B06H17</p>	
<p>到達目標</p>	<p>【Part1 薬理学総論】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 薬物療法、薬理作用の基本形式と薬物の作用機序の様式について説明できる。</li> <li>② 薬物の用量と作用の関係（薬物用量反応）について説明できる。</li> <li>③ 薬物作用に影響を与える因子について説明できる。</li> <li>④ 薬物の副作用・有害作用および相互作用について説明できる。</li> <li>⑤ 薬物の適用方法の特徴と体内動態について説明できる。</li> <li>⑥ 医薬品医療機器等法（旧薬事法）の薬物分類と表示・保管法および日本薬局方について説明できる。</li> </ol> <p>【Part2 薬理学各論】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 中枢神経作用薬（1）：全身麻酔薬・向精神薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>② 中枢神経作用薬（2）：鎮痛薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>③ 末梢神経作用薬：自律神経作用薬、局所麻酔薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>④ 循環器系作用薬：強心薬、高血圧治療薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑤ 止血薬：止血薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑥ 抗炎症薬：ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑦ 抗アレルギー薬：抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑧ 抗悪性腫瘍薬：抗悪性腫瘍薬の特徴・有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑨ 漢方薬：漢方薬の特徴・臨床応用について説明できる。</li> <li>⑩ 病原微生物に対する薬物：消毒薬、抗菌薬の特徴、有害作用と臨床応用について説明できる。</li> <li>⑪ 歯科専用薬物：う蝕予防薬、歯内療法薬、歯周療法薬の分類と特徴、有害作用と臨床応用について説明できる。</li> </ol>	
<p>授業概要</p>	<p>薬物治療の目指すもの、薬物の作用機序や薬物動態（吸収・分泌・代謝・排泄）、薬効に影響する因子、副作用及び取り扱いと管理について理解を深める。合わせて臨床で多く用いられる代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、及び薬物の取り扱いとその安全管理について学習し、専門分野の歯科臨床補助の理解に役立てる。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>定期試験 90% 授業の参加態度 10% *練習問題は到達目標の到達度を自覚させる目的で各講義時間内に実施する。また、練習問題で間違った箇所は到達目標に達成していないところなので、理解しないまま過ぎないように自学自習（予習・復習）を促し、レポートを提出することで知識が確実に積み重ねるようにする。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。</p>	
<p>予習・ 復習時間</p>	<p>【予習】2 時間 【復習】2 時間</p>	
<p>教科書</p>	<p>歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 医歯薬出版社</p>	

参考書	① 配布資料 ②「イラストでわかる歯科医学の基礎」 第3版（永末書店）
オフィス アワー・ 連絡先	前畑 月～金曜日 16:30-17:00 場所未定・前畑研究室 maehata@kdu.ac.jp 出張などでオフィスアワーに不在の場合はメールを入れて下さい。